

新収蔵資料紹介

2022.2
▼
2023.1

寄託から寄贈へ

久留米藩大庄屋の古文書群

「上野健三郎家資料（第1次）」

上野家は天正年間以来、400年
余り続く旧家で、江戸時代には山本
郡柳坂組の大庄屋を務めました。同
家に伝来した近世から近代にかけて
の資料は、これまで8次にわたって
寄託（第1次）、寄贈（第2～8次）
されています。

そのうち、第1次として平成8年
度より寄託を受けていた942点が
寄贈されました。内容の年代は江戸
時代前期から昭和戦後期に及びます。



柳坂組の「御立山」（藩有林）管理や年貢徴収に関する大庄屋関係資料

《大庄屋の役割と文書》

資料群の中核となる近世の古文書
には、上野氏を大庄屋役に任ずる辞
令や、その職務に伴って作成または
受理された書類が伝わります。内容
をみていくと、大庄屋として藩法の
伝達、年貢徴収、村の願書の取次、
訴訟の調停など、村々の支配のため
職務を全うする上野氏の姿が浮かび
上がります。

なかには、全藩規模に及び約5万
人が蜂起した宝暦一揆について、庄



宝暦一揆関係の古文書（部分）
宝暦4年（1754）5月「乍恐奉願上覧」

屋からの報告書や、百姓たちからの
詫び状が残り、山本郡柳坂組の大庄
屋に対する農民の闘いの推移を詳し
く知ることができます。

《写真にみる上野家の近代》

近代以降の資料は写真が中心で、
家族の幼少期や人生の節目の肖像写
真、卒業式や結婚式、同窓会の集合
写真などがあります。

また、地域に関わるものとして、
新嘗祭耕作地、須佐能袁神社の神幸
行事を撮影した写真があります。前
者は、上野雷八が大正3年（1914）
の新嘗祭で献上する粟の耕作者に選
ばれた時のものです。後者は、行列
の様子や境内のにぎわいを写してい
ます。同行事は昭和59年に市の無形
民俗文化財に指定されており、その
歴史を示す資料としても貴重です。



須佐能袁神社の神幸行事

「あそびながらじをおぼえる」
楽しく遊び、楽しく学ぶ

「堺家資料」

昭和の初め頃までは、子どもの遊
び道具といえは多くは、独楽や凧、
おはじきやお手玉といった純粋に遊
びを楽しむものでした。

知育玩具が初めて登場したのは、
1950年代頃と言われています。
1970年代に入り、日本に教育
ブームが訪れると、教材のように勉
強をさせる目的で作られたものが多
くなりました。

堺家で使用されていた積み木に
も、ひらがな五十音が書かれたもの
や、「あそびながらじをおぼえる」
と箱書きされたひらがなカードがあ
ります。



知育玩具のひとつ 「あそびながらじをおぼえる
ひらがなカード」